

松嶋夜話 卷之下 12

〔原文〕今叢林僧者有愛護指爪力作美事

〔訓読〕今叢林の僧の者に指爪を愛護し美事を作す者有り

〔原文〕偶觸之損之

〔訓読〕偶たま之に觸れて之を損すれば

〔原文〕如磨圭玷収言玷然

〔訓読〕圭の玷けたるを磨し、言の玷たるを収める如く然り

※『詩経』大雅・抑篇「白圭の玷(か)けたるは、尚お磨くべし。斯の言の玷けたるは、為むべからず」

〔原文〕是訛也

〔訓読〕是れ訛(いつわり)なり

〔原文〕律中登廁規式曰

〔訓読〕律中の登廁の規式に曰く

〔原文〕常去左手第四指爪甲

〔訓読〕常に左手の第四指の爪と甲を去らして

〔原文〕莫令藏垢

〔訓読〕垢を藏さしむること莫れ

〔原文〕又道誠法師曰

〔訓読〕又道誠法師曰く

※道誠法師…?

〔原文〕佛令比丘指甲止長

〔訓読〕佛比丘をして指甲の長を止めしむ

〔原文〕一麥粒許過則剪之

〔訓読〕一麥粒許り過ぎれば則ち之を剪る

〔原文〕夫寄跡緇門者或止爪甲無淨行

〔訓読〕夫れ跡を緇門に寄せる者は、或いは爪甲を止めて淨行無し

〔原文〕或留鬚髮

〔訓読〕或いは鬚髮を留めて

〔原文〕曰丈夫

〔訓読〕丈夫と曰く

〔原文〕等顯異相

〔訓読〕等、異相を顯す

※「等」がよくわかりません。この文の先頭なのか、前の「曰丈夫」の後につくのか？

〔原文〕迷凡流者謂之剃除鬚髮之佛子乎

〔訓読〕凡流を迷わす者は之を鬚髮を剃除する佛子と謂はんや

〔原文〕不見唐善靜居永安院日

〔訓読〕唐の善靜、永安院に居する日を見ず

※善靜(858 - 946)：五代后晋禅僧。长安金城人，俗姓王。初掌书奏于神策军。年二十七，詣终南

丰德寺出家。昭宗天复间南游，参乐普元安，得契心要。北还，居终南云居山。复游峨眉，

过兴元，连帅王公礼重留之。终归长安，住永安禅院。卒溢浄悟禅师。

〔原文〕洗沐之次舍利隕落

〔訓読〕洗沐の次、舍利隕落す

〔原文〕然揚其殊微不許其徒

〔訓読〕然れども其の殊微を揚げて、其の徒を許さず

〔原文〕示人古人得靈異而收秘不告異於常人

〔訓読〕人に示し、古人靈異を得るも、密を収め異を常人に告げず

〔原文〕今人無靈異而僞稱比異於古人

〔訓読〕今人靈異無くも僞りて稱し、異を個人に比らふ

〔原文〕心迹相萬矣

〔訓読〕心迹相ひ萬(かなら)ず

〔原文〕其愚之甚彼爪甲愛之所謂愚益愚哉

〔訓読〕其の愚の甚だしき、彼の爪甲之を愛す、所謂愚は益ます愚なるかな